

群馬菱の実会だより

平成21年度菱の実会総会 会計報告

頭記について下記の通りご報告申し上げます。

1. 総会開催時及びその前後における会費納入状況

605,000円 (200名×3,000円+前年・前々年分納入)

＜ 会員総数 349名 (平成21年5月現在) ＞

※ 会費未納入の会員の方々には、追って事務局より振替用紙添付の上ご請求申し上げます。
宜しくご協力の程お願い致します。尚、既に会費を納入された方に前後の関係でご請求が重なる場合もございますが、ご容赦をお願い申し上げます。

2. 懇親会 会計報告

＜ 収入の部 ＞		＜ 支出の部 ＞	
会員参加者	58名	料理・飲み物一式 三菱電機ライフサービス(株)群馬支店	194,920円
会社幹部参加者様	10名	駐車場借用料	6,000円
組合関係参加者様	5名	合計 73名	タクシー代
収入 合計	219,000円	支出 合計	206,925円

収入支出差引残額 12,075円

(差引残額については懇親会参加者様からのご好意として、菱の実会々費に充当いたしたく、
宜しくご了承・ご理解をお願い申し上げます。) 以上

総会時の記念写真、スナップ写真を、菱の実会ホームページの「菱の実会特設ギャラリー」に掲載しています。次をクリックしてご覧ください。
<http://www18.ocn.ne.jp/~hishimig/gal.htm>

シリーズ・馬電の思い出

⑨ 三菱電機ホーム機器(株)の発足と最寄商品の機種移管

昭和59年10月、クリーナ、レンジ、ジャー炊飯器など最寄商品群の開発設計、営業、経理、資材、サービス部門を分離し、製造母体であった(株)菱電埼玉製作所を吸収合併して三菱電機ホーム機器(株)を発足させ、段階的に機種移管をしていった。

馬電は、家庭電化製品を中心とした場所から、ホームエレクトロ機器を核とした電子商品場所へ大きな構造改革の再構築を図ることとなった。

CDプレーヤー、光ピックアップ、業務用パソコン「マルチ16」の事業移管を受けると共に、MSXホームパソコン、家庭用電話機、静止画テレビ電話、ホームセキュリティー、PHS携帯電話、おしゃべり積み木、ハンディーシャワー … など独自の商品も巾広く手がけていった。

しかしこれらの商品は、技術革新と急激なコストダウンの波に飲み込まれ、その後他場所に移ったり、消えていったりした。馬電の一番苦しいときだったかも知れない。

一方で三菱電機ホーム機器は、三菱電機という大きな組織から離れ、経営にこまわりがきいたことと、共通費負担が減ったことなどから量販店との商談を優位に進め、大きく発展していく。

当時、最寄商品群は大きな赤字をかかえ、存続の議論が繰り返されていた。もし事業移管がなかったら、消えていたかも知れない。三菱電機ホーム機器でよみがえった。

当時の馬電メンバーの多くは、商品と一緒に三菱電機ホーム機器に移った。